

# 佐世保市立中里小学校

～中里仲良し～



〒858-0904

佐世保市中里町356番地

校長 大石 泰文

児童数 461名（19学級）



## 令和6年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

### I テーマ

「中里仲良し」を合言葉に学校教育目標実現のための教育実践

### II 教育目標

夢をもち、みんなと共に生きる子どもの育成  
～中里仲良し（共に学び、共に育つ）～

### III めざす子ども像

かしこい子 やさしい子 たくましい子

### IV 目的

- 1 地域との交流を通じて、豊かな心の育成を図る。
- 2 めあてに向かって、自ら学ぶ児童の育成を図る。

### V 実践内容

#### 1 地域との交流

（1）町内老人会による挨拶運動（全学年・毎月学校登校初日・児童玄関前）

本年度は、毎月実施することができた。

毎月学校登校初日の7:20～8:00頃まで、20名程度の老人会の方々を中心に挨拶運動を実施した。老人会の方々が自然な形で優しく声を掛けてくださるので、児童にとっては、挨拶の習慣定着だけでなく、和やかな時間となり、気持ちよく1日のスタートを始めることにつながっている。



(2) 生き物探し・秋探し(1学年 6月・9月 東漸寺 11月 相浦公園)

1年生は、6月に学校の近くにある東漸寺での生き物探し、11月には相浦公園まで足を延ばし、秋探しの学習を行った。自然に恵まれた中里地区等でのびのびと学ぶことができ、日頃見慣れた風景の中にも再発見したことがたくさんあり、地域や自然を知るよい学習となった。



(3) 町探検(2学年 7月・11月 中里小周辺)

2年生は、中里小学校周辺の町探検を行った。中里小の周辺には、歴史ある寺や神社、昔からある商店や最近できたチェーン店などがある事を知り、落ち着いた雰囲気の中にも住みやすい地域であることを学習することができた。また、10月の探検時には、小グループに分かれて各施設を訪問し、取材や見学を行い学習を深めることができた。



(4) スーパーマーケット見学(3学年 10月 校区内のスーパーマーケット)

3年生は、校区内のスーパーマーケット見学を実施した。事前に考えていた質問をお店の方に積極的に尋ね、仕事の工夫や苦勞を知ることができた。また、中里地区からたくさんの方が買い物に来ていることも理解し、自分たちの生活を支えていることが分かった。



(5) 幼稚園との交流(5学年 11月 中里小学校体育館)

5年生は、近隣の幼稚園保育園と交流を行った。2回に分けて実施した。子供たちの心の交流はしっかり深まった。

## 2 豊かな心の育成

### (1) サツマイモ栽培（2学年 6月・10月 学校園）

2年生の「芋づくり」は、本校2年生の伝統的な体験活動になっている。芋差し、水やり、草取り、収穫を子どもたちの手で行うことができた。この活動が、以後の学習に生かされ、夏野菜や秋野菜作りの学習が充実したものとなった。また、命をいただく食育の指導にもつながった。



### (2) 図書ボランティアによる読み語り、図書館環境整備（全学年 通年 各教室）

図書ボランティア「お話ポッケ」は、中里小学校児童の読書習慣を育むためになくてはならない存在である。読み聞かせと季節に応じた図書室の環境整備に尽力していただいている。図書室入り口には、季節や時期に応じて選書された本や飾りがあり、多くの児童が図書室へ行くことを楽しみにしている。



### (3) 長崎平和学習（4学年 11月 長崎市）

4年生の長崎平和学習では、見学時に平和案内人の派遣を依頼し取り組んだ。平和案内人9名のくわしく丁寧な説明により、児童はより深く平和について学ぶことができた。6月29日、8月9日の平和学習のまとめにもなり、平和な世の中を大切にしていける心が児童に育った。



## 3 学力向上

### (1) 研究授業（全学年・通年・各教室）

令和3・4年度のICT利活用の研究指定や令和5年度の文部科学省指定のリーディングDX事業での研究をより発展させ、タブレット端末を活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、授業改善を進めてきた。全員授業を基本として、ステップアップ授業を行い、学年部員全員で授業を深化させていくことができた。また、学力調査の結果を受けてタブレットを活用する場面を精査し、文を書く活動を位置づけるようにした。



## (2) 自ら学ぶ児童の育成（全学年・通年・家庭、学校）

全学年で、タブレット端末の活用も含めた家庭学習の充実を目指し、校内研究組織の家庭連携部が中心になり、家庭学習強調週間の設定と「家庭学習の手引き」「家庭学習がんばりカード」を作成した。また、基礎学力向上部は、学期ごとに「校内漢字検定」「校内計算検定」を実施した。これらの取組で、自分で決めためあてに向かって家庭や学校で学習し、努力した事が結果として現れる喜びや楽しさを体得した児童が増えた。



## (3) 標準学力検査（全学年・12月・各教室）

全学年で、12月に全児童を対象とした標準学力検査を実施した。調査結果から出たデータを学年、学級で考察することによって、教職員の学習指導の振り返りや改善を図ることができた。また、標準学力テスト後には、その結果をまとめた個人票を配付し、保護者と1年間の学習の成果と課題を共有することができた。

# VI 成果と課題

令和3・4年度のICT利活用の研究指定、令和5年度の文部科学省指定のリーディングDX事業への取組を通して、協働的な学び・個別最適な学びの一体的な充実を図りながら、自分の思いをもって、粘り強くみんなと共に学ぶ児童の育成を図ってきた。校内研修においても、特にこの2年間は、個別最適な学びの実現に重点を置き研究を進めることで、児童が自ら目標を設定し自らの学びを調整できるような授業展開を考えることができたことで、児童の意欲や粘り強さが高まってきた。（児童対象の学び方アンケートにおいて、授業はよくわかったかの問に対し94パーセントが、また自分で目標を設定したり自分に合った学び方をしたりできたかの問いに対し82パーセントが肯定的な回答をしている。どちらも5月時点に比べ数値的な向上が見られた。）

また、これまで中里小学校が継続してきた地域に根付いた活動を工夫して実施することができた。このことが、学校評価において、学校運営に関する質問項目「学校の指導方針に共感でき、特色のある教育活動に満足している」においても、高い評価を得ることに繋がっている。

さらに、本校の課題「書くこと」を明確化し、単元及び授業の中でタブレットを活用する場面を精査し、文章を書く活動を位置づけるなど、学力向上に関しても、国語、算数の標準学力検査の結果を普段の指導に生かすという教職員の意識が定着するとともに、学力向上への取組を実践している。昨年度から継続しているこの取組により、「書くこと」に対しての児童の苦手意識は、克服されてきた。